

OB チーム、この 1 年（H24 年度）の戦績と観戦記

- ・荒川区社会人リーグ一部(9 チーム:2012.4～2013.2)

8 戦全勝で完全優勝

- ・荒川区区民大会(18 チーム:2012.9～11)

二回戦ーグリーンジュ 2:0、三回戦ーFC ウェンズ 1:1(PK 6:7)

- ・東京都社会人リーグ四部(9 チーム:2012.4～12)

7 勝 1 敗で 2 位(三部への昇格出来ず)

- ・東京都社会人サッカーチャンピオンシップ(2013.1～2)

一回戦ー墨田区役所 4:0、二回戦ーFC 夢路 2:0、三回戦ーTFSC 0:8

※荒川区サッカー協会の HP <http://www.arakawafa.org/>

※Tokyo Football の HP <http://www.tokyofootball.com/>

※東京都社会人リーグ四部の HP→ <http://www.ts14.jp/main.html>

★荒川区社会人リーグ（一部 9 チームー2012. 4～2013. 2）で全勝優勝！

2/11（祝）、荒川区社会人リーグ一部の最終戦において 6 勝 1 分けで 2 位に付けていた 45ers と対戦、1:0（1:0、0:0）で勝利し、8 戦全勝で全日程を終了、念願の一部優勝を全勝で果たした。2009 年度から加入し、三部優勝、2010 年度は二部 2 位、2011 年度は二部優勝と若干足踏みをしたが 4 年をかけて荒川区を制覇した（OB チームは荒川区では毎年リーグ戦とトーナメントの区民大会、選手権大会の三冠を目標にして活動しています）。



<試合経過（60 分）ーvs 45ers（2/11）>

試合開始直後から一位と二位の直接対決に相応しい激しい試合となったが、前半 10 分、相手の CK をクリアして上手く速攻を展開、中央突破から一旦右に開いてからのセンターリングを中央で FW 鏡が胸で落とし、上がってきた左 SB 山下が左足のダイレクトシュートが見事にゴール左角

に突き刺さり待望の先制点。その後、ボールポゼッションは開成に分があったが、追加点のチャンスは何度か逃し前半を終了。後半は 45ers が攻撃に出て来たところを開成がカウンターを仕掛ける展開が続いたが、GK 吉川、CB 三井、橋詰を中心に相手の攻撃を押さえ、前半の 1 点を守り切って全勝優勝を決めた。

試合後はキャプテンの草川君（H17卒）がどこからか探してきた屋上バーベキュー日暮里駅前公園で祝勝会を行ない大いに盛り上がった！

<試合経過（60 分）ーvs FC 尾久（9/9）>

学生 OB が試験で参加出来なかったとのことで H18 卒以上の 11 名ちょうどでスタート。残暑が残る中でのゲームだし、年寄り（失礼？）が多いので最初の 5-10 分間でプレスをかけて点を取ってその後は楽にゲームを進めるというプランで試合に入る。すると、3 分に左サイドをオーバーラップした SB 近藤からのセンターリングを FW 小林がヘディングで合わせてゲームプラン通り先制。その後は引いて守備を固める相手に対してボールを繋いで両サイドからの攻めを狙うが追加点が奪えない。前半はそのまま終了。

後半も最初の 5-10 分間でプレスをかけて点を取って試合を決めるプランでスタート。すると後半開始早々の 1 分、バックラインの裏に走り込んだ FW 三井（いつもは CB）にスルーパスが通りマークを切り返しで外し、ゴールエリア右角辺りから右足のトーキックで決めて 2:0。さらに 5 分に右の SB 山崎のオーバーラップからのグラウンダーのセンターリングに FW 三井が合わせて 3:0。その後も一方的に攻めたが何度かバーやポストに嫌われ決めきれずそのまま終了。

★荒川区区民大会（18 チーム：2012.9~11）は三回戦敗退！

11/4（日）に荒川区民大会と都リーグの試合が完全にダブってしまったので 2 チームを作って対応した。荒川区民大会では S60 の安藤君を気楽にデビューさせるために前半で勝負を決めようというゲームプランで試合に入り、10 名の FC ウェンズ（荒川区一部リーグ所属）に対して両サイドを使ってチャンスを作ったが決めきれず前半は 0:0 で終了。後半開始直後、相手 FW が苦し紛れにゴール前に放り込んだロビングボールを BK と GK が譲り合い、ワンバウンドさせてしまうとそれが GK の頭を越えてゴールバーに当たり跳ね返りをヘディングで押し込まれるという情けない先制点を許し 0:1。そこから、目が覚めたようにサイド攻撃を中心に攻め立て、30 分ハーフの残り 10 分で右サイドライン際に出たパスから GK と BK の間にアーリークロスが入り、FW 鏡がワントラップから冷静に流し込んで 1:1 の同点。3 連敗中の PK 戦は避けたいとの思いからその後も総攻撃をかけたが、FC ウェンズの身体を張った守備に防がれ 1:1 で終了し、安藤君をゲームに出せぬまま PK 戦へ。結局、9 人目まで粘ったが以下のように 6:7 で敗退し、PK 戦 4 連敗！

FC ウェンズ ○○○××○○○

開成 OB ○×○×○○○×

★東京カップ（天皇杯の東京都予選－2013.1～2）で初の三回戦進出！

今年も天皇杯の東京都予選でもある東京都社会人サッカーチャンピオンシップ（東京カップ）に参加、1/20（日）の一回戦で自治体代表の墨田区役所を4：0（1：0、3：0）で撃破、2/3（日）の二回戦では日野市代表のFC 夢路に2：0（1：0、1：0）で勝利、2010年の初参加からの目標であった三回戦進出を果たした。しかし、2/17（日）の三回戦では東京都一部のTFSC（前進は東芝府中サッカー部：14チーム中13位で二部に降格）と対戦、さすがに長らく一部でやっていたチームの総合力は非常に高く、前半は2失点と耐えたが、後半は開始1分の失点が響き6失点、結局0：8で完敗した。

→東京カップの過去の結果、2010年：二回戦負け、2011年：二回戦PK負け、2012年：一回戦PK負け

以下の戦評は、東京のアマチュア社会人サッカーの情報（一部有料：監督の私は当然有料会員）を集めて紹介するサイトであるTokyo Footballに掲載されたもの。

<試合経過（70分）－vs 墨田区役所（1/20）>

昨年の東京カップでは初戦敗退した荒川区代表の開成OBが4：0で自治体代表の墨田区役所に快勝し二回戦進出を決めた。開成OBは開始早々にDF近藤が負傷退場するアクシデントに見舞われるが、代わって入ったDF秋本を含め最終ラインが落ち着いて対応する。中盤の中太、草川が巧みな配球で相手DFに的を絞らせず、3トップはボールを受ければ勢いよくゴールへと突進。前半終了間際、中太のサイドチェンジから最後はゴール前のクロスでFW渡辺がダイレクトで蹴り込んで先制。後半もプレスの緩い墨田区役所に対し攻勢を続ける開成OB。ゴール前で粘り強く守る相手の守備に何度も好機を阻まれたが、28分にFW高橋がドリブル突破から追加点を挙げると、その後はブロックの隙間を次々と突いてFW渡辺、鏡が加点。開成OBが3トップの活躍で4点快勝を飾った。墨田区役所は守備では粘りを見せたものの、攻撃では相手の素早い寄せに苦しみ最後までリズムを作れなかった。



<試合経過（70分）－vs FC夢路（2/3）>

前半は互いに前線でボールが収まらず、もどかしい時間が続く。だがスコアレスで折り返すと思われた前半終了間際、開成 OB の MF 渡辺が敵陣でボールを受けると、守備網の間をドリブルでかいくぐり、落ち着いてゴール右すみに流し込み先制。後半は夢路が MF 永岡、窪川のドリブル突破で打開を試みるが、最終局面で相手 DF に阻まれ決定的なチャンスを作れず。逆に 17 分に開成 OB は MF 中太の鋭いコーナーキックがOWNゴールを誘い貴重な追加点。そのまま開成 OB が逃げ切り三回戦進出を果たした。



<試合経過（70分）－vs TFSC（2/11）>

TFSCが格の違いを見せつけ8点大勝を飾った。開始からテンポよくパスをつないで攻め込むTFSCは、13分にDF今岡がミドルシュートを決めて先制点を奪うと、23分にもほぼ同じ位置からFW鎌田がネットを揺らし前半を2：0で折り返す。後半もTFSCが中盤でパス交換しながら相手DFの綻びを次々と突き、鎌田がハットトリックを達成するなど6点を追加。開成OBの攻撃も守備陣が集中した守備でシャットアウトし8：0の大勝で準々決勝へ。



★東京都社会人リーグ四部（2012. 4～2012. 12）は今年も2位で昇格出来ず！

OB チームは東京都社会人リーグ四部（8 ブロック：9 チーム）に所属して二年目の今年（2012年度）も残念ながら2位に終わり、来年度も四部（5 ブロック：10 チーム）で三部昇格を目指す

こととなった。

<試合経過（70分）－vs FC大泉（9/16）>

会場は小平市にあるブリヂストンの工場の中にある野球との兼用グラウンド。内野部分は土&外野部分は長めの芝生というコンディションなのでパスを繋いでビルドアップからサイド攻撃を仕掛けるという開成OBのサッカーが出来ず、お互いに中央に固まっての潰し合いが続いたが、開成OBの方が球際で勝っているのでポゼッションが高くFKやCKのセットプレーが多くなり、チャンスが広がる。前半終了間際、MF中太のCKを走り込んだCB近藤が頭でたたき込んで前半を終了。しかし、後半2分にFC大泉に同じようにCKからヘディングシュートを決められ同点に。5分、左サイドからのセンターリングをFW田丸が決めて2:1と再びリード。10分過ぎに一瞬のBKラインのマークのズレから相手FWにラインを割られGK吉川の飛び出しも及ばず2:2に追いつかれる。その後は、相手の足が止まりプレーが荒くなってきたが主審の笛が定まらずゲームは徐々に荒れ気味に…。圧倒的に攻めるが得点出来ないまま時間だけ過ぎたが、終了間際の34分にペナルティエリア右角からのFKに壁に入っていた相手ディフェンスが手を出しPKの判定。OBチームはPK戦3連敗中だし、ゲーム中のPKも失敗ばかりなので祈りながら見ていたが、MF中太が何とか決めて3:2で勝利。この試合にはH15田丸を最年長にH23江上、山口、渡辺までの年次の15名が集結し、年次の広がりOBチームらしくなってきた。

<試合経過（70分）－vs FCアイオス（7/29）>

アラ還（around還暦）を理由に真夏のゴルフの誘いをすべて断っている私－中村は考えられる限りの熱中症対策（ポカリスウェット、塩、カットアイス、日傘等々）を施し、会場である秋ヶ瀬公園（荒川の河川敷にある大規模なレクリエーション施設）に向かった。駐車場に停めてクーラーの効いた車内から外に出た瞬間に「こりゃヤバイ！帰ろうかな…！？」との思いが一瞬よぎったが、何とか日陰のベンチで試合を観戦した。

炎天下（9時キックオフでまだ良かったが…）での試合なのに交代メンバーが1名しかいなかったのも、最初の10分でプレッシングを掛けてボールを奪って点を取ってあとは楽に試合を進めようとのコンセプトで試合に入った。しかし、攻め込むが先制点が奪えなかったのも10分過ぎから無理攻めをせずボールを回して相手を走らせ疲れを誘う戦法に切り替える。33分右CKからのゴール前の混戦からFW鏡が決めて待望の先制点が入る。前半は1:0で終了。

後半も最初の10分はプレッシングを掛けたが追加点を奪えなかったのも再度ボールを回して両サイドを使った攻めを狙う。15分に唯一の交代カードの三井を右のMFで起用しサイド攻撃を強化。すると中の守りが薄くなったところから追加点が生まれる。20分逆襲からMF草川とMF中太のパス交換から中太がゴール正面20mのミドルシュートを決めて2:0。その後は相手の足が止まり一方的な展開になり、33分に左サイドからの攻撃から相手のGKとBKの連携ミス进行MF草川がフリーで押し込んで3:0。そのまま終了し、リーグ戦の通算成績を3勝1敗とした。

試合後は、浦和駅西口の焼肉屋で食べ放題&飲み放題（2,980円）で暑氣払いを行った！



高校チーム、この1年(2012年度)の戦績と観戦記

- ・高校総合体育大会東京都支部予選・東支部(2012.4～5)

二回戦 一都立両国 4:2、ブロックトーナメント決勝一京華高校 3:3(PK 4:5)

- ・全国高等学校サッカー選手権大会地区予選(2012.8)

一回戦一都立科学技術 4:0、二回戦一都立第三商 5:1、準決勝一日大一 4:0、決勝一都立墨田川 2:4

- ・新人選手権大会地区予選(2012.11～12)

一回戦一都立葛西工業 4:0、二回戦一都立江戸川 0:0(PK 4:3)、準々決勝一立志舎 9:0、決勝一都立小松川 0:2

※東京都高等学校体育連盟サッカー専門部のHP <http://tokyosoccer-u18.com/> 大会情報一覧> 東支部or 1地区

- ・リーバーサイドユースリーグ(2012.4～12)一東京都第1地区のU-18のリーグ

KAISEI A:一部リーグ(12チーム)10位、KAISEI B:二部リーグBグループ(7チーム)5位、KAISEI C:二部リーグAグループ(7チーム)3位

※リーバーサイドユースリーグのHP <http://riverside-league.com/index.html>

★高校総体東京都支部予選のブロック決勝でPK負け！

高校総合体育大会東京都支部予選の東支部(第1地区:江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川+第2地区:足立区・文京区・豊島区・中央区)のブロックトーナメント2回戦(4/29)で都立両国を4:2(前半2:0、後半2:2)で破り、決勝(5/5)で京華高校と対戦。前半の25分までに2点を先取したが、2:2(前半2:1、後半0:1)の同点に追い付かれ延長戦(10分ハーフ)へ。延長前半に先に点を取られたが後半同点に追い付く粘りを見せトータル3:3でPK戦へ。6人目まで粘ったが結局4:5で敗退、都大会(ベスト56)進出は成らなかった。以前の観戦記で書いたように、恥かしながらOBチームは現在PK戦3連敗

中だが、高校も昨年春の総体予選、夏の選手権予選、そして今回とPK戦3連敗となってしまった。PK戦は運だと言うけれど、ここまで続くと観に行っている私一中村が疫病神なのかも…！？

<試合経過(70分)ーVS京華高校(5/5)>

開成は、二回戦と同様に「前から行こう」を合言葉に速いプレスをかけるが二回戦のようにボールを奪えず攻撃を組み立てられない。お互いに潰し合いが続き、最初のシュートが15分の京華のミドルシュートであった。しかし、25分に開成に待望の先取点が入った。左サイドの高い位置でこぼれ球を拾ったMFのアーリークロスが相手のGKとBKの間を抜け、走り込んだFWがシュート、GKに弾かれたが逆サイドから上手く詰めて1:0。さらに、その直後にカウンターからバックラインの裏に抜け出たFWがグランダーのシュートを決めて2:0。この流れのまま前半を終了して欲しいと思っていた矢先の30分、CKの際にファーポストに走り込んだ長身のCBをフリーにしヘディングで決められ2:1。流れが京華に傾いたところで前半は終了。

開成は、後半も浅いバックラインを継続、二回戦よりはオフサイドトラップが有効に機能しており危ない場面は作らせない。お互いにメンバーを交代させ始めた25分にこれもセットプレーと言える左サイドでのロングスローをクリア出来ずゴール前での混戦に持ち込まれ2:2の同点に追い付かれる。セットプレーでのディフェンスには問題あり。特に飛び出すGKとの連携が悪い。結局、そのまま10分ハーフの延長戦へ。

延長前半の2分にペナルティエリアの左角付近からドリブルで持ち込まれてのシュートをGKが弾くがリバンドを押し込まれ2:3。同点に追い付きたい開成は延長後半の開始直後に積極的に点を取りに動き、左サイドでの上手いパス交換から速いグランダーのパスが逆サイドを上がって来たMFに通じ3:3に追い付く。私一中村は暫く開成がPK戦で勝ったのを全く見ていないので何とか逆転して欲しいと念じていたが、祈りが通じずそのまま終了。PK戦は6人目まで粘ったが疫病神のせいかわる4:5で敗退し、都大会(ベスト56)進出は成らなかった。

開成 ×○○○○×

京華 ○○×○○○



<試合経過(70分)ーVS都立両国(4/29)>

開成は、昨年の新人戦でもバックラインをかなり浅くしてGKを昔のスイーパーのように機能させるフォーメーションで戦っていたが、今回はそれをさらに強めたフォーメーションで試合に臨んだ。すなわち、極端に浅くフラットなバックラインでGKはペナルティエリアの外に位置し正に5人目のバックと言った形である。もちろん、このフォーメーションが機能するには前線からのチェイシングや中盤での速いプレッシングが必要であり、開成は試合開始から激しいプレスをかけ両国にボールをキープさせない。すると5分といういい時間帯に左CKから先制点が入った。ニアポストに入ったボールをうまくトラップ、振り向きざまのシュートはポストに当たったが上手くプッシュして1:0。さらに10分には中央でのポストプレーからMFが抜け出し飛び出したGKの脇に流し込んで2:0。両国は開成の速いプレスに手間取り、前半はほとんどチャンスを作れない。ちなみに、両国のゴールキックの時にはバックラインはハーフライン近辺で、その10メートル位後ろにGKが位置していた。

開成は、後半も「前から行こう」を合言葉に速いプレスからボールを奪いチャンスを作ったが決め切れない。すると5分過ぎにクリアボールを左サイドで拾われ速いアーリークロスがGKとBKの間に入るとスイーパーのGKがクリアミス、両国に拾われ無人のゴールに流し込まれて2:1。開成は速いプレッシングを続けるため後半開始から1名交代させていたが、15分にもう一人交代。その直後に開成のタイミング良いミドルシュートをGKが弾き、詰めたMFがプッシュして3:1。25分左サイドを抜け出したFWのグランダーのセンターリングを逆サイドから詰めて4:1。これで試合は決まった。さすがに開成の足が止まり出した30分過ぎにまた左サイドから崩され2点目を献上したが、そのまま4:2で終了。

★全国高等学校サッカー選手権大会地区予選はブロック決勝で敗退！

高校チームは、全国高等学校サッカー選手権大会地区予選(第1地区:江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区の32校を3ブロックに分ける)において、一回戦(8/14)で都立科学技術を4:0(1:0、3:0)、二回戦(8/16)で都立第三商業を5:1(4:0、1:1)、ブロック準決勝(8/18)では日大一を4:0(3:0、1:0)と目を見張る攻撃力を発揮し三連破。8/21のブロック決勝で都大会(Best48)進出を賭けて都立墨田川と対戦した。決勝では狙う通り前半12分に先制したが、その後は墨田川に個人のパワーとスピード及びチームの完成度の違いを見せつけられ2:4(1:2、1:2)で敗れ、残念ながら都大会(Best48)進出はならなかった。しかし、高二と高一のチームが選手権大会地区予選のブロック決勝まで進んだことは評価出来ます。

<試合経過(70分)ーVS都立墨田川(8/21)>

ブロック準決勝までは開成が高いボールポゼッションで圧倒的に攻めていたので、ボールをキープされ攻められた時にディフェンスがどれだけ耐えられるかが決勝のポイントだろうと思いながら観客席の日陰の席に座ると、場内アナウンスで先発メンバーの氏名と背番号が発表された(準決勝は無かったから決勝だけ?)!

前半は開成のキックオフで試合開始。墨田川は準決勝までの相手とは違って開成の浅いバックライ

ンに対して両SBが積極的にオーバーラップし両サイドからうまく攻めてきた。開成の攻撃の起点である両ウイング(右9番と左10番)はそのディフェンスに追われ、いい形でボールをもらえない。しかし、12分に逆襲から素晴らしい先制点が入った。相手陣に入ったところでボールを拾ったMF7番から右ウイング9番にパスがつながり、9番はそのまま中にドリブルで切り込みペナルティエリアに流れてきたFW11番にパス、11番はそれをサポートに来たMF7番に戻すと7番はそのままペナルティエリアの外から左足でシュート、右上隅に見事に決まって1:0。このまま前半を辛抱すれば相手が焦ってくると期待していたのだが、15分に開成陣右サイドからのロングスローをうまくすられ上がってきたMFにプッシュされ1:1。さらに、20分には開成の左サイドを突破されセンターリング、ゴール前を流れたところを折り返され、サポートも良くゴール前で押し込まれて1:2。墨田川は一人一人の出足が良く、ボールを拾われるので開成は攻撃の形を作れないまま前半を終了。

後半、開成は2人を交代させ突破口を探る。墨田川は相変わらずボールをキープしながら開成の浅いバックラインの裏をうまく突いてくる。12分、開成のボランチ6番がクリアボールを拾い、前に出ようとしたところを囲まれ奪われた後BKの裏に出され、飛び出したGKの上をループシュートで抜かれ1:3。開成は諦めずディフェンスを立て直して攻撃に出る。25分、墨田川陣右サイドからのセンターリングをFW12番がGKの前でヘディングして2:3と迫る。墨田川も勝利を確実にしようと攻撃。32分、開成陣右サイドからのスローインからうまく繋がれセンターリング、一度クリアしたが拾われダメ押し点を決められ2:4。そのまま終了。高二&高一のチームと高三のチームの完成度の違いが得点差に現れたゲームという感想であった。



<試合経過(70分)ーVS 日大一(8/18)>

高校チームは、今回の全国高等学校サッカー選手権大会地区予選では春に行われた高校総合体育大会支部予選(ブロック決勝で京華高校にPK負け)の時の4:4:2(前からチェイシングすることでバックラインを浅くしてBKの裏へのボールはGKが前に出て防ぐ)から突破力のある右ウイングの9番と左ウイングの10番を両サイドライン際に張らせた攻撃的な4:3:3に変更(バックラインを浅くしてBKの裏へのボールはGKが前に出て防ぐのは継続)、サイド攻撃を起点に点を取って勝ち切ろうという戦略だと思われるがこれが見事にはまって一回戦&二回戦を圧勝した。しかし、一回戦&二回戦の相手はかなり格下で準決勝の日大一との試合が試金石になると思いながらブロック準決勝を観戦した。

前半は開成のキックオフで試合開始。開成は前の2試合と同様に両ウイングを攻撃の起点としてサイド攻撃を仕掛ける。10分、左SB5番の押し上げから左サイドに開いていた左ウイング10番がペナルティエリアの左角に近いところでパスを受け、マークに来た相手SBをスピードで縦に突破しカバーに来たCBを避けてマイナスのグランダーのセンターリング、これを右サイドから詰めてきた9番が見事に合わせていい時間帯に先制。その後も60%以上のボールポゼッションで両サイドからの攻撃を主体に攻め立てたがなかなか追加点を奪えない。日大一の攻撃はツートップを縦に走らせるだけで、浅いバックラインで押し上げているため裏を突かれる場面が2-3回あったがシュートミスやGKのセーブで事なきを得る。もう一点を取って前半を終了したいと思っていた33分、日大一の左サイド(ゴールまでは30m近く)のFKをボランチの6番(高一で昨年の中学10番のエース)が右足でカーブをかけたキック、飛び出したGKのパンチングミスでゴールし待望の追加点。さらに、終了間際の35分にはナイスゴールが入る。右サイドでの攻撃からのこぼれ球を拾った右SBがゴール正面に詰めていたMF8番の頭にドンピシャで合わせ、ヘディングのシュートが左サイドネットにGKは全く動けなかった。そのまま3:0で前半を終了。

後半に入ると3点リードされている日大一は前線に人数を掛けて攻めて来たが、サポートがなく単発。7分、逆に開成に決定的な4点目が入る。左サイドからの攻撃が日大一のゴール前で混戦となりクリアボールを拾った左ウイング10番がゴールラインまで持ち込みセンターリング、11番のCFがボレーで押し込んで4:0。これで試合が決まった。その後は、3日後のブロック決勝に備えて先発した11番、10番、6番を順次交代させてそのまま終了。ブロック準決勝とは思えない一方的な勝利だったが、余りにも攻められていないのでディフェンスに回った時が心配…！？

★ 新人戦地区予選(2012.11～)は都大会目前の準決勝で敗退！

高校チームは、新人選手権大会地区予選(第1地区:江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区の31校のトーナメントで決勝に進出した2校がBest32として来春の関東大会東京都予選に出場)において、一回戦(11/18)で都立葛西工を4:0で破り、二回戦(11/25)は苦戦したものの都立江戸川を0:0(PK 4:3)で退け、準々決勝(12/2)では立志舎を9:0(4:0、5:0)で撃破し、12/9の準決勝で都大会進出を賭けて都立小松川と対戦した。前半はスリートップにいい形でボールが入らないため得意のサイドからの攻撃が組み立てられず押され気味であったがディフェンスが頑張り0:0で終了。後半先に点を取ればと期待していたが逆に10分に先制され、さらに15分にはCKから追加点を奪われ0:2で敗れ、残念ながら来春の関東大会東京都予選への進出を逃した(第1地区の強豪、かえつ有明、関東一、修徳はシードされており東京都予選から出場)。

東京都高等学校体育連盟サッカー専門部会のHP→ <http://tokyosoccer-u18.com/>

<試合経過(70分)－VS都立小松川(12/9)>

準々決勝の立志舎戦が9:0という極端な楽勝(相手BKのラインコントロールひどく縦一本のパスだけでGKと一対一になれる)だったのでその結果が悪い方に出なければいいがと願いながら寒風の中防寒

対策をバッチリして日当たりのいいサイドに陣取った。

前半は小松川のキックオフ。開成はいつものように GK をスーパーにする浅いバックラインで両サイドにウイングを張らせた 4・3・3 の攻撃的フォーメーション。しかし、相手の寄せが速く BK からのビルドアップが上手く出来ないため攻撃の起点となるスリートップにいい形でボールが入らず得意のサイド攻撃が組み立てられない。チャンスはセットプレーからのみという状態。守備では小松川に決定的チャンスを 2 度ほど作られたがゴールポストや GK の好セーブに助けられ、何とか 0:0 で終了。ハーフタイムで 11 番(左 WF)IN、13 番 OUT。後半先に点を取ればと期待していたが逆に 10 分に左サイドでの BK の連携ミスから縦パスの処理を誤り先制された。開成は選手交代で流れを変えようとしたが 15 分に右 CK をニアポストでクリア出来ずゴール前に流れたところを決められて 0:2。その後はあまりチャンスを作れず結果的には完敗に終わった。



中学チーム、この 1 年(2012 年度)の戦績と観戦記

・東京都中学校春季サッカー大会第 5 支部予選&都大会(2012.4~5)

予選トーナメント二回戦ー銀座中 3:1、決勝ー足立十三中 3:0、決勝リーグー足立七中 2:1、西新井中 2:0、朝鮮第一中 2:1、都大会一回戦ー修徳中 1:0、二回戦ー日野二中 1:2

・東京都中学校選手権大会第 5 支部予選(2012.6~7)

決勝トーナメントー荒川五中 0:0(PK 5:3)、決勝リーグー足立六中 0:1、南千住二中 2:1、洲江中 0:0

・東京都私立中学サッカー大会(2012.8)

二回戦ー順天中 2:0、三回戦ー東海大菅生中 1:0、四回戦ー暁星中 1:0、準々決勝ー明大明治中 2:0、準決勝ー國學院久我山中 0:2

・東京都中体連合サッカー秋季大会(新人戦)第 5 支部予選(2012.9~10)

予選リーグー鹿浜中 18:0、原中 6:1、諏訪台中 2:0、決勝トーナメントー回戦ー足立第六中 0:1

・第 4 回首都圏私立中学チャンピオンズカップ(2012.12~2013.1)

予選リーグー立教新座中 0:1、早稲田学院中 1:3、八千代松陰中 1:1

※東京都中学校体育連盟サッカー専門部のHP <http://www.soccer-tokyoctr.jp/> 大会情報の中体連

or 中体連（支部・区町村）＞支部予選第05＞結果

※首都圏私立中学チャンピオンズカップのHP <http://www.shigakusoccer.jp/>

★春季サッカー大会都大会(32 校)の一回戦に勝利しベスト16！

東京都中学校春季サッカー大会の第5支部予選(荒川区・足立区・台東区・中央区－46 校)の予選トーナメント(6校)を勝ち上がり決勝リーグ(4校)へ進出、決勝リーグ第1戦(5/5)で足立七中を2:1、第2 戦(5/5)で西新井中を2:0 で連破、さらに最終戦(5/6)で強豪の朝鮮第一中に2:1 で見事に勝利し都大会(ベスト32)へ進出した。続く都大会一回戦(5/12)では修徳中に1:0 で勝利しベスト16、翌5/13(日)の運動会当日の二回戦では日野二中と対戦し、前半2 分にいい形で先制したが、日野二中の9 番の個人技(前半10 分に20m のミドルシュート、23 分に30m 以上のFK)で2 点を取られ、結局 1:2 で敗退しベスト8 進出はなかった。

<試合経過(50 分)－VS 日野第二中(5/13)>

都大会一回戦(5/12)が、GW中は開成のサッカー観戦三昧だったので家族の評判を落としていた私－中村が失地回復のために企画した箱根&鎌倉ツアー(5/10-12)と重なり、池谷先生に「5/12の試合は観に行けないので結果をメールしてください」と依頼していたところ、「なんとか1:0 で勝ちました」とのメールが入っていました。運動会の当日で可哀そうだなと思いつつ32 年前私が高2の時も運動会と試合(総体の都大会)が重なったなと思いを馳せていました。当時、顧問の先生(S29 卒の松本先生)には「午後の試合だが運動会には出ずに準備をするように」と言われていましたが、我々高2は午前の最後に「棒倒し」があるので「棒倒し」やってから試合に行かせてくださいと頼み込み、何とメンバーの大半がスウェーデンリレー、棒倒し、学年別リレーと出場して試合に向かいました。しかし、さすがに試合では疲れて動けず0:4 の完敗。松本先生に「それ見たことか!？」とえらく怒られたのを思い出しました。

前半開始直後、開成は日野二中の守備が落ち着かない間を突いて早くも先取点を上げた。2分左サイドでの攻撃から中央へいいタイミングでスルーパスが通りそれを右スミに流し込んで1:0。これはいい感じ、ベスト8も夢ではないとほくそ笑んだ。その後も開成はボールポゼッション6:4くらいでゲームを支配し追加点を狙ったがチャンスを生かせない中、15分過ぎに9番を付けながらボランチの位置にいる日野二中の選手がこぼれ球を開成サイドの左で拾うと詰めて来たディフェンスを2人左に外しゴール正面25mから左足でミドルシュートを放った。虚を付かれたGKが辛うじて弾いたボールはポストに当たり跳ね返ったところを相手FWに詰められて1:1の同点。日野二中の9番は個人技もあり競り合いにも強い選手で日野二中はこの9番にボールを集めてゲームを展開し始める。開成はいい形の攻撃をするが決め切れず、勝負は後半かと思い始めた23分にまた9番にやられた。ハーフラインから10mくらい開成サイドに入ったゴール正面左で与えた35mくらいのFKを9番が早いリスタートで直接ゴールを狙った。開成のGKは直接は狙わないと決めてかかっていたようで伸びて来たシュートへのジャンプのタイミングが合わずゴール。雰囲気悪い失点で2:1と逆転されて前半を終了した。

後半開始、開成は同点に追い付こうと攻め立てるが、前半ほどボールが繋がらず得意のサイドからの攻撃が出来ない。蹴り合いのようなゲーム展開になるとボランチの位置にいる 9 番の個人技が生きてきて、中盤でボールを拾うとサイドに開くようにドリブルでキープし、マークを外しては逆サイドに大きなキックで味方を走らせた。結局、開成は後半は決定的なチャンスを作れず、日野二中の 9 番一人にやられたようなゲームとなって惜敗した。前半のようにボールをキープしてポゼッションを高めて両サイドから丁寧に攻撃すれば勝てない相手ではなかったので、ベスト 8 進出が出来ず残念と言う他ない試合だった。



<試合経過(50 分)－VS 朝鮮第一中(5/6)>

この日の会場は扇大橋のグラウンド。OBチームが荒川区社会人リーグで利用しているグラウンドなので配布されている駐車券を使って駐車場に到着。ラッキー……！

朝鮮第一中が赤いユニホームで開成が青いユニホームなので正に日朝対決の雰囲気。朝鮮の選手は体躯が非常にしっかりしていてFWの10番なんか高三かと思うぐらい。さらに、コーチの指示やグラウンド内で選手の掛けあう声が朝鮮語でまるで国際試合。朝鮮の攻撃は中盤の繋ぎは簡単に捌き、前線サイドのオープンスペースにフィードして体格のいいツートップを走らせるパターン。開成は両サイドからの攻撃を意識してBKからビルドアップを図る。開成はトップ下でゲームを作るキャプテンの10番、スピードがありドリブル突破が得意な左サイドのMFの13番、身体も大きくキック力のあるCBの25番が中心にゲームを展開。8分に相手陣の中程で得たFKを10番が素早いリスタートで中央にフィードするとディフェンスに戻るCBの頭を上手く超えて走り込んだFWに通り、飛び出したGKの脇を抜いて1:0。いい時間帯に先取点が入った。前日の試合で引き分けており勝たないと次に進めない朝鮮第一中がバックラインを上げて攻めに出てきたので開成はカウンターでチャンスを作るが追加点が奪えない。すると13分にクリアボールを朝鮮のボランチに拾われ25mのミドルシュートを決められ同点に追い付かれる。前半は1:1で終了。

後半も同じような展開でゲームはスタートしたが、3分に相手サイドでの朝鮮のスローインのこぼれ球が開成の10番の左側に流れたところで左利きの10番は迷わず25mの距離からダイレクトシュート。これが見事にゴール左上に決まって2:1。朝鮮第一中は再びバックラインを上げて攻撃を厚くし、15分過ぎからはベンチから朝鮮語での指示が飛びかう中、体躯のしっかりしたツートップ目掛けてパワープレ

一を仕掛けた。しかし、開成は二人掛かりのマークで突破を許さず、結局 2:1で逃げ切り見事な勝利を収めて、都大会(ベスト32)への進出を決めた。



★東京都中学校選手権都大会(48校)に進出出来ず！

東京都中学校総合体育大会兼東京都中学校選手権大会の第5支部予選(足立区・荒川区・台東区・中央区の47校)は予選トーナメントを勝ち上がり、決勝リーグ(4チーム×3組、1位だけが都大会)に進出したが1勝1敗1引き分けで勝ち上がれず、残念ながら3年間続いていた都大会進出を逃した。

★首都圏私立中学チャンピオンズカップに進出(3年振り)！

東京都私立中学サッカー大会(73校参加)において、二回戦(8/23)で順天中を2:0で下し、三回戦(8/24)で前年度の首都圏私立中学チャンピオンズカップ優勝の東海大菅生中を激闘の末1:0で破り、続く四回戦(8/25)では強豪の暁星中に1:0で勝利し、東京都代表として8校が参加する第4回首都圏私立中学チャンピオンズカップ(12月開催)へ進出を決めた(3年振り)。さらに、同日の準々決勝では明大明治中を2:0で破りBest4に進んだが、翌日(8/26)の準決勝では中学生離れしたチーム力の國學院久我山中に0:2で敗れた(決勝は久我山中が学習院中を9:0で粉砕した)。

※猛暑の中、8/14から高校チームの試合(選手権大会地区予選)を6日間で4試合、8/24から中学チームの試合(私立中学サッカー大会)を3日連続で4試合も観戦した「蹴友」の専属記者である私一中村は、熱中症対策をしていたにも関わらずヘロヘロ状態だった…。

<試合経過(50分)ーVS國學院久我山中(8/26)>

前日と同じ近くのコンビニ(次に近いコンビニは歩いて5分以上かかる)に車を停めて観戦へ(ファミマさんごめんなさい)…。反対の山の準決勝(学習院中VS海城中)を後半から観戦したが明らかにレベルが低い。トーナメント表を見直すと開成がいる山の方が圧倒的に強豪揃い。良く勝ち上がったものだと改めて感心。余談だが、池谷先生も「東海大菅生中は昨年度の優勝校として本大会へ出場出来るのにもかかわらず東京大会に出場して来た。菅生中の監督には弱いものいじめはしないで下さいと嫌味

をってしまった」とのこと。菅生中が東京都大会に出場すればベスト8に入る可能性が非常に高いからそうすれば前年度優勝枠で削られた埼玉代表を3校から4校に戻せるというテレビ埼玉の陰謀か？なんて勘ぐってしまった。

前半は開成のキックオフ。久我山はBKの間でボールを回しビルドアップしながら両サイドへ展開するサッカーでフォーメーションは4:3:3のような感じ。両サイドにボールが入るとその裏をMFやSBが押し上げる分厚い攻め。開成はディフェンスに追われるが素早いカバーリングで凌ぐ。12分、開成の右SBがクリアにもたついた瞬間にボールを奪われペナルティエリア内に持ち込まれ、中央にフォローしてきたMFに繋がれ0:1。開成は相手の出足がいいので攻撃が組み立てられない。久我山はボールを持っているプレーヤーへのサポートが良くダイレクトでボールを繋いでくる。久我山ベンチからは「蹴り合いになっている！落ち着いて繋げ！」とコーチの指示。25分、ポストプレーが光っていた11番のCFが中央でボールを拾うと見事なドリブルで開成のディフェンスを突破し、GKとの一対一も冷静に決められ0:2。前半を終了。

後半、開成はサイドを使って攻撃に出るが相変わらず相手の出足が良くセットプレー以外にはチャンスが見い出せない。BKから繋いでビルドアップを図るも詰めが速く、縦に蹴るだけに追い込まれる。何とか1点を取ろうと攻撃に出るが相手に余裕を持ってプレーされ、そのまま終了。久我山は中学生とは思えない完成したチーム力を発揮。「連戦の疲れから足が止まってしまっは久我山相手ではどうしようもなかった」とは池谷先生の言葉も頷ける。



<試合経過(50分)ーVS明大明治中(8/25)>

試合開始まで2時間近くあるので、コンビニに停めていた車でファミレスを探しに甲州街道に出ると直ぐに大きなスタジアムが目の前に現れた。味の素スタジアムであった。なんとかファミレスを見つけて昼食を取り、試合開始30分前まで涼んで出発。同じコンビニでまたポカリスエットとダイヤアイスなどを購入…(猛暑での観戦はアラ還には命がけです)。

前半は開成のキックオフで開始。午前中の試合では暁星中にボールをキープされたが、明治中とは五分五分のボールポゼッション。開成はトップ下のFW 10番がいい形でボールを持つとチャンスが広がる。10分に待望の先制点。開成のBKのロングフィードを相手の左SBが目測を誤ると中、うまく裏に抜け出したMF 8番が飛び出したGKの脇を抜いて1:0。15分のGKとBKの連携ミスからのピンチも明治中のシュ

ートがポスト左に外れ命拾い。給水タイムの後いい時間帯に追加点。中盤からの速いスルーパスにFW 9番がタイミング良く抜け出し、飛び出したGKの頭越しにループシュートを決めて2:0。そのまま前半を終了。

後半開始から、明治中は前がかりで攻勢をかけるが、開成のディフェンスは落ち着いて対処し、攻撃はカウンター狙いへ。次の一点がどちらに入るかで試合が動くゲーム展開。開成のBKはラインコントロールがしっかりしており、再三オフサイドトラップを成功させる。ラスト5分で明治中は総攻撃をかけるが開成の守備は固くそのまま2:0で勝利しBest4へ。翌日の準決勝も観に行かなければ…と諦めの胸中に…。

<試合経過(50分)－VS暁星中(8/25)>

「菅生中の次が暁星中とはこりやまたシンドイな…」と思いながら真夏のゴルフは回避しているので土日は空いている私－中村は中央高速・調布ICに近い明大明治中に向かった。学校のHPIに「車で来場は禁止」と書いてあったので、近くのコンビニ(歩いて3分程だが本当に暑い)に車を停めてポカリスエットとダイヤモンドアイスなどを購入、持参したクーラーボックスに入れていざ観戦へ…。前の試合を観戦しながら池谷先生と話をしていると「今日の暁星中はAチームが他の大会に行っていてBチームなんですよ…」とのこと。俄然観戦意欲が湧いてきた…。

前半は開成のキックオフ。確かに暁星中の選手の背番号は10番台の後半からから40番台でちょっと変な雰囲気でしたが、やはり一人一人の技術はしっかりしていてとてもBチームとは思えないサッカーをしていた。中盤での競り合いも若干暁星に分のある展開が続いたが、12分にワンチャンスを決めて先制した。暁星陣の左サイドで粘っていたFWが一瞬マークを振り切り右足でシュート気味のセンターリングこれをキャッチしようとしたGKがこぼしたところを詰めていたFWがブッシュして1:0。いい時間帯で先取点が入る。その後はお互いにパスがつながらず決定的なチャンスを作れないまま前半を終了。

後半開始早々から暁星が分厚い攻勢をかけてきたが開成は粘り強い守備でピンチを防ぐ。また、猛暑の中での試合なので開成は次々とメンバーを入れ替えチームの足が止まらないように注意していた。開成はトップ下のFW 10番が攻撃の起点になるのだが彼にボールが集まらず攻撃が組み立てられない。15分のFW 10番のミドルシュートが開成の後半の初シュートといった状態。20分を過ぎると暁星の攻撃がさらに分厚くなるが開成の集中力は高く守備は綻びを見せない。ロスタイム2分の表示後のパワープレーも凌ぎ切って1:0の勝利。これでBest8、東京都代表として第4会首都圏私立中学チャンピオンズカップ(12月開催)に2年振りの参加が決定。

<試合経過(50分)－VS東海大菅生中(8/24)>

正直、池谷先生から組合せを聞いた時には「初戦は勝てるだろうが、三回戦で菅生中とはくじ運が悪い」と諦め半分ながら、前日の順天中戦は観れなかったので11時30分キックオフに合わせ定年前必殺の中抜有給休暇(10-14時)を取り大井第二球技場に向った。

前半、25分ハーフという短い試合時間なので「先取点を取れば面白くなるのだが…」と思いながら試合を観ていると、前半10分にカウンターからBKの裏に抜けたFW 7番が飛び出したGKの上を抜く見事なループシュートを決めて待望の先制点。その後、ボールは菅生中に支配されながらもカウンター攻撃でチ

チャンス度を度々作り追加のチャンスを得るが、相手GKのファインセーブもありそのまま前半を終了。後半、菅生中は両SBも高めに張らせ攻撃を仕掛けてきたが、開成中は全員の守備意識が落ちず決定的なチャンスを作らせない。残り10分からの菅生中のパワープレーも含めた総攻撃もBKの粘り強い守備やGKのナイス飛び出しとナイスセーブで凌ぎ切り、昨年度の首都圏私立中学チャンピオンズカップの優勝校を破る金星を上げた。試合終了後、池谷先生にお祝いに行くと「ゲームプラン通りの会心の勝利」という感じの満面の笑顔でした。また、声を張り上げて応援していた菅生中の父兄の試合終了後の一言が受けたのでご紹介します…「勉強ではどの道勝てっこないのにサッカーでも負けたらどうしようもないヨ…」。



★新人戦は都大会(48校)に進出出来ず！

東京都中体連合サッカー秋季大会(新人戦)第5支部予選(足立区・荒川区・台東区・中央区の47校)は予選リーグを勝ち上がり、準決勝トーナメント(4チーム×8組の1位が決勝リーグへ)に進出したが、その一回戦で足立第六中に0:1で惜敗し、残念ながら都大会進出を逃した。

★首都圏私立中学チャンピオンズカップは予選リーグで敗退！

第4回首都圏私立中学チャンピオンズカップ(東京8校、神奈川3校、千葉2校、埼玉2校、前年優勝校の16校)の予選リーグにおいて、第一試合(12/25)は立教新座中に0:1で惜敗、第二試合(12/26)は早稲田学院中に1:3で敗れ予選リーグ敗退が決定、第三試合(12/30)は八千代松陰中と1:1の引き分け。

<試合経過(60分)－VS立教新座中>

前半から試合の流れが数分毎に入れ替わるほぼ互角の展開が続き、お互いに決定機を決め切れないうまうま試合が進んだ。後半20分過ぎから両チームとも勝ち点3を取りに前がかりになって攻め合う中、終了間際に右サイドをスピードのあるFWにドリブルで突破されグラウンダーのセンターリングを中央で合わされ痛い失点、そのまま0:1で終了し大事な初戦を落とした。



<試合経過(60分)－VS早稲田学院中>

お互いに初戦を落としているので相手の出方を探るようにゲームはスタート。開成はバックラインからのビルドアップでボールを両サイドに散らし早稲田の守備ブロックの隙を突こうとするが、なかなか楔となる縦パスがいい形で入らず堅守速攻を狙う早稲田のゲームプランに次第に嵌っていく。16分、開成ゴール正面25m付近でのヘディングのクリアが横に流れたところを出足良く詰めた相手FWが放ったダイレクトボレーシュートが見事に決まり先取点を奪われる。開成も前半で何とか追いつこうと攻め立てたが、25分の右コーナー付近のFKからの絶好のチャンスも決めきれず前半は0:1で終了。

後半の速い時間帯で追い付きたいと思っていた後半開始4分に左CKからのボールをクリアしきれず押し込まれ痛い追加点を喫した。しかし、その1分後左コーナー付近でのボール回しからフォローしたHBがBKとGKの間に上げたセンターリングを右サイドから飛び込んだFWがヘディングですらし1:2。これから同点にと前がかりになった2分後にまたまた痛い失点。カウンターで右サイドから崩され、センターリングが左サイドに流れたところ詰められ1:3。その後は何度かチャンスを作ったが決めきれず結局相手のゲームプランに嵌った形でそのまま敗北。



<試合経過(60分)－VS八千代松陰中>

既に立教新座中と八千代松陰中の決勝トーナメント進出が確定、さらに冷たい雨の降る中での言わば消化試合であったが、開成は格上の相手から何とか初勝利を上げようと守備ブロックを固めボールを

動かしながら両サイドからの攻撃を狙うゲームプランで入った。前半 5 分、開成がバックラインからビルドアップを図ろうとするボールを相手 FW に引っ掛けられ右サイドを突破され戻されたグランダーのセンターリングに合わされて早い時間帯に先制点を取られる。しかし、開成は慌てずに両サイドにボールを散らし攻撃を組み立てる。前半はなかなか決定的なチャンスは作れず無得点に終わったが、身体を張ったディフェンスで集中を切らず追加点を防ぎ 0:1 で終了。

後半、開成はキックオフから攻撃に出るが、開始 1 分の左サイドから崩したゴール前での混戦のチャンスを決めきれず。15 分 FK からのシュートは濡れた人工芝で GK がファンブルするも押し込めず。このまま 3 連敗かと思った終了 1 分前、カウンターから右サイドを突破してのセンターリングを中央でシュート、GK のセーブから再度右サイドに流れたボールを拾った FW を相手 BK が引っ掛けて PK の判定。これをキャプテンが決めて 1:1 で引き分け。結局、1 分 2 敗のリーグ 4 位で終わった(3 年前の第一回大会は 3 敗の 4 位)。

追伸

何と予選リーグ(4 ブロック)では 9 校も出場した東京代表(東海大菅生中は昨年度優勝枠)は東海大菅生中以外すべて予選リーグで敗退、一方、神奈川県、埼玉県、千葉県の実業団 7 校はすべて決勝トーナメント出場というドーナツツ現象に(?)…、でも東海大菅生中が連覇した！

